

世界大会への参加国・地域について

4月17日現在、世界大会への参加を申し込んでいる国・地域数は29、出場申し込み者数は、一般部が103名、ジュニアが92名となっています。このほか、11歳以下の親善試合への出場申し込み者が12名います。参加国・地域のエリア別の内訳は、アジア・オセアニアから9か国・地域、アメリカから6か国、ヨーロッパから12か国、中東・アフリカから2か国です。

ロシアからの選手およびウクライナからの選手の参加に関しては、3月24日にKIFおよびKAJF理事会での議決結果を皆さんに発信し、その後3月27日には理事長からのメッセージを発信してきました。

ウクライナには2月より、西部地区の支部（11の地域支部があり、この他にロシアに占領されている地域に3つの地域支部がある）に対して、出国が難しいと思われる成人男子を除いたジュニアおよび成人女子をKIFが招待することで、世界大会への参加を呼び掛けてきました。そしてロシアには、ウクライナからの参加が難しい成人男子のクラスへの参加を認める可能性があることを伝えてきました。

KIFとしては、両国からの参加を強く望んで交渉を続け、ウクライナとは複数回に渡ってリモート会議を開催するなど、協議をしてきました。また日本国内のスポーツ庁や外務省、および空道を支援してくださっている議員の方々などへの説明を行い、理解を得る努力を行ってきました。

一旦はウクライナからの参加者の人選を行うところまで進み、実現の一手手前まで至りましたが、ロシア人選手が出場する大会への出場に関してウクライナのスポーツ競技団体から反対する方針が示されたこと、およびウクライナ西部地区の支部間の合意形成が難しいことから、まことに残念ながらウクライナからの参加は断念せざるを得ませんでした。ウクライナからの参加がない場合はロシアからの参加も認めないという判断もありましたが、両国からの参加を模索してきた中でウクライナが参加を見送ったということであり、難しい判断でしたが、ロシア人選手の参加を条件付きで認めることにしました（条件については、「理事会からの報告」のとおり）。ウクライナについては、年内に開催されると思われるヨーロッパ選手権大会に参加できるように最善を尽くしたいと考えています。

5年ぶりに開催される世界大会においては、先の理事会で決定したとおり、すべての参加者および観客に対して、政治的なメッセージの発言や誹謗中傷を禁止します。国籍に関係なく、純粋に空道というスポーツの大会に出場する、またはその選手を応援するという姿勢で臨んでいただくことを強くお願いします。

いろいろな形での争いが続く混迷する世界であるからこそ、空道という武道を通して世界の平和と協調を追求し、それを実現する場として、空道の世界大会が開催されることを切に願います。

2023年4月17日
KIF 理事長・全日本空道連盟理事長
高橋英明